

「迷惑をかける人々」 エレミヤ書 16章20節、31章8節

聖学院大学 人間福祉学部人間福祉学科教授 田村綾子

ある授業で「自分が『生きている価値のある人間だ』と思う人？」と尋ねてみたことがあります。半分くらいの人が「思う」に手を挙げました。「思わない」に手を挙げた人は少しかったです。「どちらともいえない」「価値があるって自分では言いづらいな」と手を挙げなかった方もいたようです。

みなさんはいかがでしょう？

「人間が生きている価値」これは、どうやって測ったら良いのでしょうか。

例えば、乗り物や、介護ロボットやコンピューターなどを開発したり、お米や野菜を作ったり、病気やケガを治したり・・・たくさんお金を稼いで寄付するとか。多くの社員を雇ってお給料を払って生活を支えてあげることもあるでしょう。このように「生きている価値」について、大勢の人や社会の役に立つような働きを思い浮かべる人は多いかもしれません。あるいは、オリンピックで優勝するとか、頑張っている姿を見せて人に感動を与える、といった人も価値があるといわれるかもしれません。

私は人間福祉学科に所属しているせいか、「人の役に立ちたい」、そうした気持ちをもって入学してこられる学生さんと多く出会います。この気持ちは、とても尊いことだと思います。

さて、私はこの大学に就職する前、神奈川県精神科病院でソーシャルワーカー(精神保健福祉士)をしていました。私にとっては、やりがいのある仕事と出会えた場所でしたし、生き生きと人間らしく働いた日々でした。そこには、精神の病気にかかった人々が入院していて、中には何年も入院し続けている方もいました。また、精神の病気だけではなくて知的障害の人もいました。本当は施設に入りたけれど満員で、ご家族も世話をすることができないために、仕方なく入院という形で病院を施設代わりに利用している方もいました。

そして施設に空きができると、病院を退院して施設に移っていく人もいました。そのような方が入る施設の一つに「やまゆり園」という施設がありました。

聞き覚え、あるでしょうか？ 神奈川県山奥にある施設「津久井やまゆり園」。

ここでは昨年の夏、とても大きな事件が発生しました。一人の男が夜中に侵入して、重度の障害者19人を殺害したのです。重症を負った人も多数いました。私は朝、このニュースを知って飛び起きました。大変なことが起きたと思いました。強盗か何かかと思ったら、犯人は元職員で、「重い障害を持った者は生きる価値がない。社会に迷惑をかけるだけだ。施設の職員も家族も苦労しているから障害者は死んだ方がみんな幸せになれる」と、明確な目的意識をもって殺したというのです。

人に迷惑をかける人は、いない方が良いでしょうか。

私はずっと考え続けています。いない方がいい。と言い切ってしまうことの恐ろしさを、ずっと考えています。みなさんは、どう思いますか？

私は人に迷惑をかけたことがなかつたらどうか……。

この先、ずっと迷惑をかけずに生きていかれるだろうか……。

先ほどお話した授業の日、学生さんが書いたリアクションペーパーの中に「自分は、今は生きている価値がある、と堂々と胸を張って言えるが、年をとったり病気やケガをしたりして、そう言えなくなることもあるだろう。失業して稼げなくなることもあるかもしれない。その時に、もう生きている価値がないとしたらどうになってしまうのだろう……と考えたら怖くなった。」と書かれたものがありました。

神さまにききました。

今日のテキストをもう一度お読みします。

エレミヤ書 16:20「人間が神を造れようか。そのようなものが神であろうか」と。

エレミヤ書 31:8「見よ、わたしは彼らを北の国から連れ戻し、地の果てから呼び集める。その中には目の見えない人も、歩けない人も、身ごもっている女も、臨月の女も共にいる。彼らは大いなる会衆となって帰って来る。」

創世記にあるように、人間は、神さまがお造りになったものです。その出来栄えを人間がどうのこうのといえるのでしょうか。人間には神さまを造ることはできない。つまり、人間には神さまと同じことができるわけではない、なのに、神さまが造られたものを「必要だ、必要ない」と判断すること—必要かどうかを判断することは、価値を決めるということですが—そんなこと、できるはずがありません。

そして、神さまは、目の見えない人も歩けない人も、必要な存在だと思われたから約束の地に呼び戻されました。もしも必要ないと考えたなら、呼び集めることはなかつたはずです。

そうはいっても、聖書の中にもたくさんの虐げられた人々は出てきます。重い皮膚病の人、出血の止まらない人、悪霊に取りつかれて足枷をつけられていた人や墓場で暮らしている人など、今でいう感染症や知的障害や精神障害によって、当時の町からはじき出された人が描かれています。身重のマリアもベツレヘムで泊まる宿を得ることができませんでした。弱い人たちが苦しんだり、社会から締め出されていた姿はたくさん登場しています。

そういう方たちにイエス様が何をなさったか、「最も弱い人に対してしたことは、私にしてくれたことと同じだ」といって、隣人愛を説くこともできます。

でも、そんなことを言っても日本ではクリスチャンは少なく、キリストの神さまを信じている人にしか伝わらないかもしれません。では、どうしたらいいのだろう……。

さらに考えました。

そもそも、やまゆり園の事件を起こした犯人は、なぜ「障害者は生きる価値がない」などと考えたのでしょうか。犯人は、事件の前にこの施設で働いていました。はじめは一生懸命に利用者さんの役に立つように頑張りたいと言っていたそうです。それが、何年か働くうちに、施設の利用者を見ていてかわいそうだと感じるようになった。そのうちに、税金を無駄に使っていて、生きている意味がない、という考えにまで変わって行ってしまった。だから殺せばいいと考えて、実行してしまったことは犯人の大きな過ちです。決して償いきれることのない大きな罪です。

でも、犯人にこんな考えをさせるようになった背景は、今の日本社会にも問題があるのではないのでしょうか。私は「現代の日本社会の冷たさ」が影響したと考えています。

生活保護を受けている人のことや、在日外国人のこと、失業してホームレスになってしまった人のことなどを、冷たい目で見たり、ひどい言葉を浴びせる人が以前よりも増えました。少しだけ法制度の話をする、高齢者が病院にかかるとき、昔は無料だったのに今は結構高いお金を払わなくてはならなくなりました。生活保護のお金も、母子世帯や高齢者への支給額は減ってきています。そういうお金を切り詰めることを、社会が求めているからです。

「そういう人を養うことにお金を使うくらいなら、殺してしまって自分たちにその金を回してくれ。」とかそんな言葉が聞こえてくるのではないかと恐ろしくなります。

みなさんは、人間が人間を食べる話、聞いたことがあるでしょうか。

聖書でも哀歌に、母親が子供を煮て食べるという記述があります。人類の歴史にも、たとえば難破した船の乗組員が仲間を殺して食べたとか、雪山で遭難した人が先に死んだ人の肉を食べたという話は残っています。これは究極の事態です。食べなければ自分の命をつなぐことができないほどの飢餓状態に陥り、ついに理性を失って手を出してしまう、という状況でしょう。今の日本はそこまで飢えていません。にもかかわらず、支援がなくては生きられない人に使うお金を惜しんだり、そんな“迷惑な人たち”はいない方がいいとしか考えられなくなりつつあるということ。このことをもう一度重視したいと思います。

“迷惑をかける人々”はいない方がいいのか。

あなたは、一生ひとに迷惑をかけないで生きていかれるのか。

そういう目線で、もう一度考えてみていただければと思います。この社会を作っているのはわたしたち一人ひとりの「人」だからです。

今日の話に答えはありません。でも、今日の聖書箇所や、他にもたくさん場所に、このことを考えるための神さまからのメッセージは載せられています。

2017年6月2日 聖学院大学 全学礼拝

i 相模原市障害者施設殺傷事件：2016年7月26日未明に発生。相模原市にある知的障害者施設「神奈川県立津久井やまゆり園」に男が押し入り、職員を拘束したうえで寝ている入居者を次々に襲い、19名を殺害、26名を負傷させた。男は、同年2月までこの施設の職員として働いていた。

被疑者の言動には優生思想が見られることや、一部の遺族の要望により被害者が匿名で報道された背景には障害者への差別があることなどが指摘されている。また、被疑者が事件の5か月前に精神科に入院していたことから精神障害者への治療や支援のあり方が問題視された。これに対しては精神障害者への偏見の助長につながるとの批判も大きい。なお、被疑者は精神鑑定の結果、責任能力があるとして2017年2月に起訴された。